

# 宿 会報 みこしだこ 2019年 新春版

2018年12月発行 第52号

## 謹賀新年

### 平成の30年を牽引した堀江時代から次世代へのバトンタッチ年

まちづくり協議会30周年、品川宿交流館もまもなく10周年を迎える2019年。平成29年度の通常総会で、「2年後、会長を次世代へ継承します」宣言をされた堀江さんに新年からの体制づくりのことを聞いてみました。

竹中・和田(以後、竹・和):(今年の)総会で2年後の引退宣言をされましたよね。  
堀江さん(以後、堀):そうなんだよ。あつという間に一年終わっちゃった(笑)年号改まる2019年は、いよいよ次世代へバトンを渡す大事な一年になります。

2018年は副会長として支えてくれた鈴木洸二郎さんや、「しながわ宿場まつり」の立ち上げ当初より尽力されて来た吉澤さんが相次いで亡くなり、やはりまちづくり協議会も世代交代の時期は確実にきています。

竹・和:平成の30年間、まち協第1期時代に区切りを付け、この一年でどう次へとバトンを渡すイメージですか?  
堀:副会長をまず選定したいと思っています。一年間、私と一緒に動いてもらいながら、少しずつ役割を引き継いでいきたいと考えています。

オリバラや再開発問題などと大きな波が来ている品川宿なだけに、私(会長)だけではなく、品川宿のまちづくり全体も変革の時期にきています。これまで以上に、まちのみなさま方のご指導、ご鞭撻、そしてご協力をお願いしたく思っています。

竹・和:この30年でまち協の中から、いろいろな活動や周辺との関わりが形成されていったと思いますが、これからは大事にし続けていくまち協の柱って何でしょう?

堀:まず人の交流拠点として大きな役割を担って来た品川宿交流館の運営です。品川宿は人が介在することで成り立ってきた宿場町です。住民間の交流、そこに外から来る人が交流して、まちの活性が広がることを望んでいます。

竹・和:そこは本当に課題。一度、きちんと集まって話し合う場が必要だよな。

堀:交流館運営も含め、まずは副会長の選出、同時に運営メンバーによる新しい体制づくりは欠かせません。新たな年を迎えたら早々に一度、決起会でもしましょう!

竹・和:交流館運営も含め、まずは副会長の選出、同時に運営メンバーによる新しい体制づくりは欠かせません。新たな年を迎えたら早々に一度、決起会でもしましょう!

## 街なみ整備事業 ～品川宿の街なみづくりに参加しませんか～

私の事務所は南品川2丁目、東海道に面している。友人が来ると「どっちから来た?新馬場それとも青楓?」と尋ねることにしているが結構な割合で「品川駅から歩いてきた」ひとがいる。雰囲気があるしまちが面白くて退屈しない、前はこんなに綺麗だったっけ?と言ってくれる。まちの変化は極めてゆっくりだから、毎日ここで生活していると気づきにくい。この変化の大きな要因は以下

のとおり。  
平成18年19年に補助金を受けて街道沿いの82件の店舗外観を改修、電線の地中化に伴って歩道を石畳にし、外灯を北から南まで統一デザイン化、石の標柱や案内板などが整備された。その後平成22年に品川区景観条例が施行され品川宿地区は区の景観計画で重点地区に指定。これを受け平成24年からは「街なみ環境整備事業補助制度」が導入され、昨年度までの6年間で21件の建物が補

助金を受けて整備された。この補助制度は来年度以降も継続される予定です。制度の概要をご簡単に説明します。詳しいことは区の都市計画課に相談してください。  
1.対象となる建物:旧東海道・北馬場通り・南馬場通り・ジュネーブ平和通り面に面している建物。  
2.対象となる整備内容:外観や外構、看板や暖簾・灯籠など「旧東海道にふさわしい街なみづくりに貢献する」修景。



整備前の北品川2丁目



整備後、電線・舗装・街路灯

### ◆東海道シンポジウム

「最初は手分けして各宿場をまわったんだよね」と、土山宿で100以上の風雪をもものともない古民家カフェでコーヒーをいただきながら、輪飼さんに東海道シンポジウムを始めた頃のお話を聞かせていただくことができました。記念すべきシンポジウム初報告書の写真には前日の懇親会でお見かけした各宿場で活動されている方たちの若かりし頃が載っていました。ひとりの気持ちが仲間を募り、輪を広げることで繋がってきたシンポジウムも今年で早31回目。私は参加させていただくようになってまだ10年ですが毎回各宿場の皆様のおもてなしと、地元への愛情が感じられる素敵な時間を体験させていただいています。難しいことはひとつもありません。興味を少しでもお持ちの方はぜひ歴史の道を探ってみてください。来年の掛川宿も楽しみにしています。石薬師宿・庄川宿の皆様ありがとうございました。(なぎさの会 小日向亮輔)

特に私達が運営主体としている簡易宿泊所ではその変化が顕著で、東京都下では5年で3倍に増えた。民泊に関しては6月に民泊新法が施行、違法民泊は排除され新たな民泊ムードができつつある。宿場JAPANでは9月にゲストハウス隣のアパートを一室借り受け、民泊「Kago #34」をオープンさせた。品川宿の住みやすさ、安全で安心して暮らせる地域をベースとして、法令遵守の宿場づくりを目指し民泊相談窓口の設置など、外国人誘致をグリーンに推進し、地域で合計100床を目指したい。(株)宿場JAPAN 渡邊崇志



### ◆和文化プレイススポット @しながわ宿場まつり

第28回目となる秋の「しながわ宿場まつり」。今年は9月29、30日に開催されました。なんと台風直撃の悪天候、ときおり雨の止む合間に交通安全パレードが行われました。今年で2回目の「和文化プレイススポット」は小唄三味線(29日)と活動写真(30日)のラインナップ。合計100名以上にご来場いただきました。江戸の三味線を奏でる小唄は、しっとりした独特のひとときを会場に醸し出していました。弁士の語りと三味線の伴奏で楽しも活動写真は、英語の字幕付きで海外の方にも喜ん

### ◆民泊2020

2020年東京五輪を控え、宿泊業界はめまぐるしいスピードで変化を続けている。

### ◆大磯宿場まつり(11月4日)



11/4大磯宿場まつりに品川宿として出店いたしました。ここ大磯の旧東海道は私たち品川宿とはちょっと趣の違う街並みにあります。大きな松が道路に伸びだしていたり、立ち並ぶ家屋の庭がとてもきれいに溶け込んでいたり。かつてここを多くの旅人が歩いたことを想像させるようなそんな宿場です。朝から小雨まじりの天気ではありましたが、「毎年この品川海苔をここで買うのを楽しみにしています。」と多くのお客様から有難いお言葉も。小さな事の積み重ねが良い形の交流となってきている気がしました。来年の参加も楽しみにするようなそんな活動となりました。(井上裕明)



### ◆地域を知り、地域をつなぐ学習

本校の文化祭では、中学1年生は「地域を知る」というテーマのもと、身近な課題を

でもらえました。皆様どうも有難うございました。(岸田洋明)



### ◆しながわこまち歩き

10/7土曜日、今年も城南第二小学校、台場小学校の3年生を対象とした「まち歩き」を実施いたしました。この「まち歩き」は市民科の授業として行われるもので各小学校の保護者とまちづくり協議会のスタッフがタグを組み、旧目黒川と旧海岸線を古い写真と現在を見比べながら巡ります。昨年は小雨の為に登れなかった品川神社の品川富士も今年はバッチリ。新実さん、佐山さんの粋な説明に真剣に耳を傾けていました。参加した保護者からは「私も知らなかった。とつても勉強になりました。」「子供たちの為に活動して下さるのはありがたい。」などの声も。小さな力ではありますが、品川宿と子供たち、保護者と地域が少しでも近づけるように今



後も継続していきたいと考えております。ご支援ご協力を宜しくお願いいたします。(井上裕明)

### ◆三島宿場まつり(11月3日)



11月3日、品川自慢の海苔を携えて、三島宿の宿場まつりに行ってきました。朝早く交流館を出発して車で2時間強、着いた先ではいつもお世話になっているという金屋さんのご夫婦が温かく迎えてくれました。最初はこれからお祭が始まると思えないぐらいの静けさでしたが、ひとたび交通規制が入ると一斉に準備が始まり、段々と賑わってきました。三島宿では「花嫁」道中があり、羽織袴と白無垢の男女が人力車で会場を練り歩いていました。他にもこの宿場に親しまれた出店や催し物がいくつもあり、また新鮮な活気がありました。千人しゃぎりの息の合ったお囃子が今でも耳に残っています。品川のブースにも始まった途端から沢山の人が来てくれました。待ってたよ!という声が多く聞こえ、私は今回のお手伝いが初めてでしたが、とても嬉しかったです。実際足を運んで会いに行くと交流を深めるって大事だなと、そして続けている限り途切れさせてはいけないなど感じました。(松永亜弓)

## TOPICS

### ◆丸子宿 丁子屋 「クラウドファンディング」への挑戦!



「品川から100万出すぞ!」堀江会長をはじめ多くの方からの応援をいただきました。本当にありがとうございました。嶋田や関など他の宿場の皆様にも、「なんででも言うてや!協力するから」って、思い出したら今でも泣きそうなくらいの応援をいただきました。東海道の人の繋がりは有難いなど、心から思います。そして4月、お陰様で無事に修復も終わりました。3かぶりに見た「広重さんの風景」は、間違いなくみんなの風景です。たくさんの思いのこもった支援金で出来上がりました。そしてまもなく東京オリンピック。世界中から訪れる人々と共に、自分自身もこの国を楽しみたいと思っています。最後になりますが、温かいご支援を本当にありがとうございました。これからも自分なりのできる形で、東海道に恩返しをしていきたいと思っています。(東海道丸子宿 丁子屋 柴山広行)

### ◆第二回『ドキュ・メント』

10月20日~21日、品川宿を舞台にドキュメンタリーを新しい角度で体感する祭典「ドキュ・メント」を開催、2日間で延べ350人が来場しました。メイン会場の一龍屋台村では「生身が一番面白い」をコンセプトに、体験や問題提起を映像やトークで投げかける「トークライブ・ドキュメンタリー」を発表。借金地獄から立ち直るまでの自伝をアニメと講談で表現する人や、故郷を想う移民たちの歌をひも解く「移民カラオケ」など、多様な生き様と出会い、社会とつながる場が生まれました。KAIDO Books & Coffeeでは、文字や言葉のフィールドで自他の境界を問い直しながら活動する8人のトークセッション。本照寺ではドキュメンタリー映画の上映と、建築集団SAMPOが用意したモバイルハウスの対話空間で「お悩み相談」を開催。世界のドキュメンタリーシーンを取り上げた書籍「ゲームチェンジング・ドキュメンタリズム」(11月出版)にも掲載されました。(米本直樹)



### 特別展示「明治維新in品川宿」を開催

2018年が明治維新150年にあたることから、品川区主催による特別展示を品川宿交流館で開催することになった。これは区の文化スポーツ振興部文化観光課からのお話で、品川歴史館の特別展「明治維新—そのとき品川は」との運動企画として、当協議会が企画制作を担当した。

交流館の2階展示室はスペース的に制限があるため、明治維新150年を4期に分けパネル展示をメインに展開した。また街道文庫の田中義巳さんによる「ワークショップ&まち歩き」を全9回、さらに記念シンポジウムを六行会の

ご協力をいただき荏川倶楽部で開催した。またこれらの成果をまとめた小冊子「明治維新in品川宿」が品川区から発行される予定である。なお全4期のパネル展示は以下の通り。

《第1期》  
品川宿を駆け抜けた、維新の人々  
7月1日～9月3日

《第2期》  
「世直し」、「ご一新」の嵐が吹き荒れた明治維新 品川宿七大騒動  
9月4日～11月8日

《第3期》  
開国を迫る諸外国、

その時、品川宿は～品川御台場の物語  
11月9日～1月22日

《第4期》  
品川宿で産声をあげた近代日本  
品川宿は文明開化のテーマパーク  
2019年1月23日～3月30日

本展示の監修は品川郷土の会長で元品川歴史館学芸員の坂本道夫さん(南品川)をお願いした。またシンポジウムには坂本さんと、青物横丁焼肉ももにの店主で新選組刀剣研究家の権東品さん、そして田中義巳さんにも参加いただいた。当協議会のメンバーでもあるこの3人の方々が集って、このような企画を



実施することができ、この地域の素晴らしさを再認識した次第である。(企画制作担当、シンポジウム進行:佐山吉孝)

### しりとり遊びの「まり」～今の品川を記録する～

今も残る子どもから大人まで楽しむことの出来る言葉遊びに「しりとり」がある。あるとき、娘が言うに「ま」で終わって自分の番になると、つい、「まり」と答えてしまう。もしくは「まり」を思い浮かべる。でも娘には「まり」で遊んだ覚えがないという。なのに「しりとり」では答えてしまうのは何故だろう。私は今年69歳になるが、小学生低学年のころには女子が直径20cm位のゴムマリで、路地やお稲荷さん境内で遊んでいたことを覚えている。今はカラーボールと材質や大きさも変わった。いつ頃から「まり」を使って遊ぶことが無くなったのだろうか。どこかの児童センターなどで継承しているのだろうか。自分が生きてきた軌跡のなかで物事や環境の変化など、こんな疑問を考えていくのが、品川宿史談会だと思っている。さらに過去の歴史を発掘することも大事であるが、身近なこと故残らない今の品川を記録して将来に残していくことも必要と考えている。

2019年1月27日には「品川町による自力・海辺埋立とまちづくりー明治20年



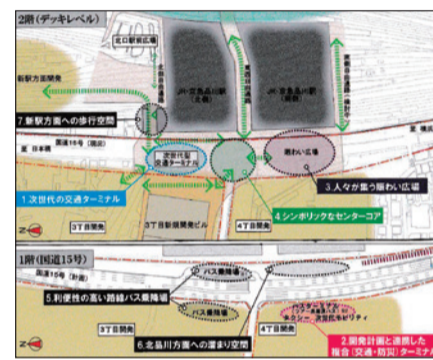
三輪車暴走族(昭和28年 南品川1丁目2番29号付近、御蔵山稲荷神社前の路地)

から40年余の品川沖埋立史」(台場小から東京工業大学大学院卒・樋口尚君による修士論文発表)というテーマの講演会を予定している。(品川宿史談会顧問/品川郷土の会長 坂本道夫)

### 品川駅南推進協の報告

品川駅南推進協は今年から半期ごとの事業計画となり上半期の事業報告及び下半期の事業計画審議の通常総会が10月25日開催されました。この場で報告された「品川駅周辺の開発状況について」、平成30年9月14日発表の国土交通省による「国道15号・品川駅西口駅前広場事業計画<中間とりまとめ>」の説明がされました。

品川駅周辺及び京急立体化の再開発事業の都市計画決定は30年度末に決定されますが、今回は国道及び品川駅西口駅前広場の中間報告です。事業コンセプトは「リニア中央新幹線や羽田空港の国際化を踏まえ、シンボル性、賑わい性の有る複合施設」が計画の内容です。京急品川駅の地平下によりJR品川駅の既存自由通路に加え、駅北側、南側(検討中)に2本の自由通路を作り国道15号の上に上空デッキを掛け、「次世代型交通ターミナル」と「賑わい広場」とし、JR駅上空の自由デッキをつなげる計画を構想している。1階には北品川方向への路線バス溜まり空間と、歩行者の溜まり空間を取る



としている。(添付図参照)

通常総会では、国土交通省からの説明がないので理解できない部分が多いとしても、かねてから駅西口から北品川方向への歩行者空間について、現状への不満が多く、余裕の有る広さと、景観に配慮された歩行者空間が作られるように、事務局に国道管理者との協議を要望してきたが、この計画でどのように北品川方面とのつながりへの配慮されているか感じられないとの意見が出て、今後の懸念事項として、積極的な交渉が要望されました。(新実正義)

### 灯籠プロジェクト

地域の協議会である「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」のまちづくりの取り組みとして始めた「灯籠プロジェクト」、プロジェクトで開発した灯籠キットを小学校の授業で使ってもらいそれを地元の路地に飾り地域住民に見てもらっています。協議会と地域活性化やまちづくりに貢献していく活動をしております。

■灯籠キットと組立図 2017年しな

がわ運河秋祭りに展示。

■灯籠ロード開催 10月6日(土)夕方、灯籠キットを使った灯籠170個を展示。これは地元の小学校である品川区立城南第二小学校3年、4年生が今年創立80周年にあたり制作したものです。2時間かけてなんとか開始の18時に設置完了。あつという間に見学者でいっぱいになり展示は大成功です。会場からは「あんなに綺麗なのにもったいな

い! もっと展示して~!」という声も聞かれました。

年々この活動は広がりを見せて2014年開始から灯籠の数で比較すると5倍となり、吊す距離180m。協議会のまちづくり活動として「灯籠プロジェクト」は今回で5年目になりました、今後も継続いたしますので応援宜しくお願いいたします。(東京サラヤ 小野文義)



### 「西郷どんまち歩き交流会」in 東京 鹿児島熱闘会議



6月30日(土)「西郷どんまち歩き交流会」in 東京 鹿児島熱闘会議30周年の年であり、NHK「西郷どん」の放送という話題もある今年! 改めて品川との交流を深めたいと、鹿児島から27名 東京在住の鹿児島関係者も集まり、協議会との交流となりました。私達は羽田でお迎え、天空橋まで京急で!! そこからは素敵なお船で

天空橋から勝島まで優雅な移動でした。歩く! 暑い! 田中さんの案内は熱がこもり…。ますます暑い。オーリーブで休憩! また街道を歩く…。たまらんー! 日影がほしい。交流館で佐山さんの講義。涼しい場所だけど佐山さんにもエンジンがかかる。品川が初めての鹿児島からの人達、東京の田舎をみてみたいといっていた人、皆さん

に満足していただけたようでした。打ち上げはいつつで、鹿児島メンバーは焼酎6本とパッションフルーツ持ち込みでした。美味しく、たくさん飲みました。2次会もほとんどの方が残り、会場の鳥次郎には入りきれず隣のうなどこさんにもお世話になりました。長い楽しい1日でした。(Iguchi Lily)

## しながわ水辺の観光フェスタ

### ◆しながわ運河まつり @東品川海上公園

「美味しかった〜」「ご馳走さま〜」この言葉を聞く度に、ほっこり幸せな気分になる。私に幸せな時間を与えてくれたのが「運河まつり」のボランティア。きっかけは「なぎさの会」facebookで何気なく見つけたボランティア募集告知。私の住まいは運河まつりが開催される東品川海上公園の目と鼻の先、なのにずっとその存在も知らずに過ごしていたが、数年前から地域ともしっかりと関わりたい、地元で居場所を作りたいと思い初めた時期でした。運河まつりは地元の団体や企業が思い思いのブースを出展する他、ステージや水辺のイベント、夜空を彩る花火、最近では気球まで揚げちゃいます。それは遊びに来てくださる皆さま、出演される方々が楽しんでくださることはもちろんの事、運営スタッフも楽しむ事がモットー。テントの設営からステージのまで運営までできる人ができる事をやる。だから私はまた来年も「ご馳走さま」が聞きたくて「賄いボラ」で幸せな時を楽しんでいる事でしょう。(なぎさの会 早川仁己)

様にもっと勝島運河を知ってほしいと、勝島ならではの企画満載!船企画は事前予約でほぼ満席。船が好きで検索で見つけて遠方から来られた方も結構いらっやあって自転車で神奈川から来られた方も!!嬉しい限り!!Eポートも大人気でもう一回乗りたい!という子供達のリクエストに答えて追加便も出したり。メイン是水辺だけど、陸も大賑わい。美味しいブラジリアンBBQに、沖縄そば、本格カレー、唐揚げ、そしてマルシェなども並ぶ食エリア。水風船、シャボン玉、バルーンアートが並ぶ遊びエリア。ストリートパフォーマンスも盛り上がり、一日中みんなの笑顔が溢れてた。(勝島運河倶楽部 土屋智佳子)

### ◆へブンアーティスト・八潮太鼓@八潮



### ◆勝島 秋のカナルフェス



昨年に引き続き大盛況に終わった「勝島 秋のカナルフェス」。近隣の皆

「八潮のみんなを笑顔に」をテーマに取り組んだ今回のイベントでは、八潮にある様々な施設にへブンアーティストや八潮太鼓の方々をお呼びしてパフォーマンスをしていただいたり、屋形船では落語家さんやFM八潮の方々にガイドをいただき京浜運河を回ったりしました。天気も良い中での開催だったので、屋形船では素晴らしい景色を味わえたと聞いています。またへブンアーティスト・八潮太鼓の方々のパフォーマンスでも、お子様からお年寄りの方

### ◆東海道しながわ橋テラス 公共スペースの可能性

夏の再来のような陽気となった10/7、「東海道しながわ橋テラス」にイベントスタッフとして参加した。歩行者天国となった通りには赤い毛氈のベンチが並び、橋の上にはフルーツや古本、アンティークのマルシェやコーヒーのスタンド、DJブースが現れた。公道の端には靴を脱いで寛げる人工芝のエリア。いつもとは違う景色に道行く人から「今日は何があるの?」と声をかけられる。アーティストが子供供達を誘って道路にチョークで絵を描き始めると皆大きなキャンパスに大喜び。それを見ていた大人達もいつしか夢中になり、アスファルトの上に自由でカラフルなアートが広がっていく。買い物に来た人や自転車で通る人達もちらりとそのアートを見ていく。大人も子供も街の道路でもっと遊べる。いつもの街とイベントのゆるゆるとした境界線、公共スペースだからこその日常と非日常の交差を感じられるとてもユニークで手作りの温かみのあるイベントになったと思う。(Sasaki Hiroko)

### ◆天王洲キャナルフェス2018秋



2018年10月5日(金)・6日(土)・7日(日)に「しながわ水辺の観光フェスタ」と同時開催、一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会主催「天王洲キャナルフェス2018秋」を開催いたしました。運河沿いの天王洲キャナルイーストエリアとウエストエリア両会場、3日間の来場者数の合計は16,200人と地域の方を中心に沢山の方々にご参加頂きました。今回のキャナルフェスは「FIND A HOBBY DAY (ファインド・ア・ホビー・デイ)」をテーマに、秋の水辺を仲間や家族と皆さんでワイワイ楽しめるBBQエリアやボウリングコーナーを設置。キッズ・ダンスバトルで盛り上がりとともに、恒例の船上ライブ、フードマーケットや、水辺のビル壁面への映画投影、渡し舟などで特別な水辺の空間を演出いたしました。(寺田倉庫 中野貴輔)



### 東海道品川宿FC

《チームについて》  
クラブ設立から3年が経ちました。フットサルチームのカテゴリも幼児、小学生、中学生、社会人と増えてきました。2019年度からは、高校生のカテゴリも新設することになりました。クラブが目指してきた。子どもから大人まで楽しめるクラブが出来上がります。《地域活動について》  
春と冬に行った「しながわ運河まつり」では、小学生から大人まで、サッカーやフットサルの大会を開催でき

ることができました。11月には、知的障がい者フットサル日本代表の受け入れを行いました。ホームページ「tsfc.jp」で検索して下さい!(松村圭祐)



### 夏休み特別企画<お寺でわいわい晩ごはん>

「頂きます」で始まり、「ご馳走様でした」で終わる。命を頂くという行為に深く感謝をし、有難い想いを皆さんで共有する「わいわい晩ごはん」が当寺の境内で開催する事ができ品川宿交流館・おばちゃんちの皆様には大変感謝しております。お寺という、いつもとは違う場所で開催されるので子供たちは、最初戸惑いながらも、お寺の建物や友達とのびのびと遊んでいた事が印象に残っています。小学生低学年から中

学生までの子供達が学年の壁関係なく一緒に遊び、高学年が低学年の子に優しくする姿は見ていてとても素敵だと思いました。この「わいわい晩ごはん」は親御さん・保護者の皆様も一緒に参加できるとあって、親御さん同士の情報交換、交流の場にもなっているように見受けられます。ふと帰り道に寄った親子が今日はここで御飯にするか!と参加してくださった方もいました。共働きのご家庭には、とても経済的に炊事の面倒

もはぶけ、なにより皆さんが持ち寄った栄養満点の御飯をバイキング形式で食べれるのはこの上ない事です。私自身も初めて参加した時、主催の方々やお手伝いする子供達が快く受け入れてくださいました。もっぱら主催側や参加者側といった隔てもあまりなく、昔の大家族の様に、皆さんでわいわい御飯を食べるとい、今失われつつあるひと時がそこにはありました。誰でも気軽に参加できる町の交流場・子供の遊び場がこの「わいわい晩ごは



ん」にはあり、本来、地域密着型であるべき寺としては、この活動をこれからも応援していきたいです。(本照寺 塚田園樹)